

# Acronis



# Acronis Universal Restore

ユーザー ガイド

## 目次

<b>1</b>	<b>Acronis Universal Restore について</b> .....	<b>3</b>
<b>2</b>	<b>Acronis Universal Restore のインストール</b> .....	<b>3</b>
<b>3</b>	<b>ブータブル メディアの作成</b> .....	<b>3</b>
<b>4</b>	<b>Acronis Universal Restore の使用</b> .....	<b>4</b>
4.1	Windows における Universal Restore.....	4
4.2	Linux における Universal Restore .....	5

# 1 Acronis Universal Restore について

Acronis Universal Restore ツールは、オペレーティング システムを物理コンピュータまたは仮想コンピュータ上で起動するのに役立つ設計になっています。このツールは、オペレーティング システムの起動にとって重要なデバイス（ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなど）のドライバを検索しインストールします。

Universal Restore は次のような状況で特に役に立ちます。

1. 障害が発生したシステムの異機種ハードウェア上での迅速な復元
2. オペレーティング システムのハードウェア非依存のクローン作成および配置
3. 物理コンピュータから物理コンピュータ、物理コンピュータから仮想コンピュータ、および仮想コンピュータから物理コンピュータへの移行

## 2 Acronis Universal Restore のインストール

<http://www.acronis.co.jp/aur/> からインストール パッケージをダウンロードし、本製品をインストールするコンピュータに保存します。

### Windows に Acronis Universal Restore をインストールする場合

1. ダウンロードした .msi ファイルを実行します。
2. 画面の指示に従います。

### Linux に Acronis Universal Restore をインストールする場合

1. インストール パッケージ (.i686 ファイルまたは .x86\_64 ファイル) を保存したディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
chmod 755 Acronis*
```

2. インストール ファイルを root ユーザーとして実行します。
3. 画面の指示に従います。

## 3 ブータブル メディアの作成

ブータブル メディアを作成するには、次の操作を実行します。

1. インストール済みの実行ファイルを実行します。

Windows の場合、デフォルトでは本製品が次のフォルダにインストールされます。

- 32 ビット版 Windows: %CommonProgramFiles%\Acronis\UniversalRestore
- 64 ビット版 Windows: %CommonProgramFiles(x86)%\Acronis\UniversalRestore

Linux の場合、`/usr/sbin/universal_restore` から本製品を起動します。

2. 画面の指示に従います。詳細については、製品内のヘルプを参照してください。

## 4 Acronis Universal Restore の使用

Universal Restore をオペレーティング システムに適用するには、コンピュータをブータブル メディアから起動します。オペレーティング システムが複数存在する場合は、Universal Restore の適用先となるオペレーティング システムを選択するように求められます。

### 4.1 Windows における Universal Restore

#### 準備

##### ドライバの準備

Universal Restore を Windows オペレーティング システムに適用する前に、新しい HDD コントローラとチップセット用のドライバを用意します。これらのドライバは、オペレーティング システムの起動に不可欠です。ハードウェア ベンダから提供されている CD または DVD を使用するか、またはベンダのウェブサイトからドライバをダウンロードします。ドライバ ファイルの拡張子は、\*.inf、\*.sys、または \*.oem です。\*.exe、\*.cab、または \*.zip 形式でドライバをダウンロードする場合、サードパーティ製のアプリケーションを使用してドライバを展開します。

ベスト プラクティスは、組織で使用するすべてのハードウェアのドライバを、デバイスの種類やハードウェア構成ごとに単一のリポジトリに保存することです。リポジトリのコピーを DVD またはフラッシュ ドライブに保存し、複数のドライバを選択してブータブル メディアに追加し、サーバーごとに必要なドライバ（およびネットワーク構成）を搭載したカスタムのブータブル メディアを作成できます。または、Universal Restore を使用するたびに、リポジトリのパスを指定することもできます。

##### ブータブル環境におけるドライバへのアクセスを確認

ブータブル メディアを使用する場合は、ドライバが保存されているデバイスにアクセスする権限を持っていることを確認します。デバイスが Windows で使用可能であっても Linux ベースのメディアによって検出されない場合は、WinPE ベースのメディアを使用してください。

#### Universal Restore の設定

##### 自動ドライバ検索

HAL (Hardware Abstraction Layer)、HDD コントローラのドライバ、およびネットワーク アダプタのドライバを検索する場所を指定します。

- ドライバがベンダのディスクまたはその他のリムーバブル メディアにある場合は、[リムーバブル メディアの検索] をオンにします。
- ドライバがネットワーク上のフォルダまたはブータブル メディアにある場合は、[フォルダの追加] をクリックして、フォルダのパスを指定します。

また、Universal Restore では Windows のデフォルトのドライバ ストレージ フォルダが自動的に検索されます。このフォルダの場所は、レジストリ値 **DevicePath** で指定されています。このレジストリ値は、レジストリ キー

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion** にあります。通常、このストレージ フォルダは **WINDOWS/inf** です。

**Universal Restore** では、指定したフォルダ内の全サブフォルダの再帰的な検索、利用可能なすべての HAL および HDD コントローラのドライバからの最適なドライバの特定、ドライバのシステムへのインストールが行われます。これらに加えて、**Universal Restore** ではネットワーク アダプタのドライバが検索され、検出されたドライバのパスが **Universal Restore** によってオペレーティング システムに送信されます。ハードウェアに複数のネットワーク インターフェイス カードがある場合、**Universal Restore** ではすべてのカードのドライバの構成が試行されます。

## インストールする大容量記憶装置ドライバ

次の場合、この設定が必要になります。

- ハードウェアに、RAID（特に NVIDIA RAID）やファイバ チャネル アダプタなどの、固有の大容量記憶装置コントローラが存在する場合
- SCSI ハード ドライブのコントローラを使用する仮想コンピュータにシステムが移行されます。仮想化ソフトウェアに同梱されている SCSI ドライバを使用するか、最新版のドライバをソフトウェア メーカーのウェブサイトからダウンロードしてください。
- 自動ドライバ検索で、システムを起動できない場合

**[ドライバの追加]** をクリックして、適切なドライバを指定します。プログラムによってさらに適切なドライバが検出された場合でも、その警告が表示され、指定したドライバがインストールされます。

## Universal Restore のプロセス

必要な設定を行った後で、**[OK]** をクリックします。

**Universal Restore** によって、指定したロケーションに互換性のあるドライバが検出されなかった場合、問題のデバイスを示すプロンプトが表示されます。この場合は、次のいずれかを実行します。

- 過去に指定したロケーションのいずれかにドライバを追加して、**[再試行]** をクリックします。
- 過去に指定したロケーションを思い出せない場合は、**[無視]** をクリックしてプロセスを継続します。求めていた結果と異なる場合は、**Universal Restore** を再適用します。処理の設定時に、必要なドライバを指定します。

**Windows** が起動すると、新しいハードウェアをインストールするための標準的な手順が開始されます。ドライバに **Microsoft Windows** のシグネチャがある場合、ネットワーク アダプタ ドライバはダイアログが表示されることなくインストールされます。シグネチャがない場合、**Windows** は、署名されていないドライバをインストールするかどうかの確認を求めます。

その後、ネットワーク接続を設定し、ビデオ アダプタ、USB などのデバイスのドライバを指定できます。

## 4.2 Linux における Universal Restore

**Universal Restore** は、カーネル バージョン 2.6.8 以降の Linux オペレーティング システムに適用できます。

Universal Restore を Linux オペレーティング システムに適用すると、初期 RAM ディスクという一時ファイル システム (initrd) がアップデートされます。これにより、オペレーティング システムを新しいハードウェアで起動できるようになります。

Universal Restore によって、新しいハードウェアのモジュール (デバイス ドライバを含む) が初期 RAM ディスクに追加されます。通常、必要なモジュールは **/lib/modules** ディレクトリにあります。Universal Restore によって必要なモジュールが検索できない場合、そのモジュールのファイル名がログに記録されます。

Universal Restore によって、GRUB ブート ローダーの設定が変更される場合があります。たとえば、新しいコンピュータのボリューム レイアウトが元のコンピュータとは異なる場合に、システムのブータビリティを確保するためにこの変更が必要になることがあります。

Universal Restore によって Linux カーネルが変更されることはありません。

## 元の初期 RAM ディスクへの復元

必要に応じて、元の初期 RAM ディスクに復元できます。

初期 RAM ディスクは、コンピュータ上のファイル内に保存されています。初めて初期 RAM ディスクをアップデートする場合は、Universal Restore によって、ディスクのコピーが同じディレクトリに事前に保存されます。このコピーの名前は、ファイル名の後に **\_acronis\_backup.img** という接尾辞を付けたものになります。複数回 Universal Restore を実行 (たとえば、不足していたドライバを追加した後など) しても、このコピーは上書きされません。

元の初期 RAM ディスクに復元するには、次の操作のいずれかを実行します。

- 適宜、コピーの名前を変更します。たとえば、次のようなコマンドを実行します。

```
mv initrd-2.6.16.60-0.21-default_acronis_backup.img  
initrd-2.6.16.60-0.21-default
```

- GRUB ブート ローダー設定の **initrd** 行でコピーを指定します。